

歴教協広島ニュース

第10回例会のお知らせ

日時 3月16日(金) 18時30分から

場所 いつもの場所の 6階 和室



内容 激動の明治・大正・昭和！？(中学歴史学習) N 健(中)
・歴史学習のポイントはこれだ ・「履修問題」とカリキュラムなど

授業づくりと学校づくり - 「学びの共同体」から問題提起 -
S 陽子(中)

例会報告

2月23日(金) 1学年総合「ホタル」学習～科学的思考を育てる総合学習～

しくみとして興味深いのは、学校外の専門家がカリキュラムの企画から全体指導に関わっていくという点だ。森林公園・昆虫館学芸員さんである。

さて、「ホタル」学習のねらいは、「考える力」「真実を見抜く考察力」「科学的な(合理的)思考力」を子どもたちに付ける、である。専門家の指導を生かすということで、外に出る総合でよくある「書く・表現する力」「接遇」というテーマ(あいさつ文やお礼文を書かせるなど)は、中心に取り上げなかった。

研究対象は、学校から歩いて20分、川に沿っては2kmぐらいの奥迫川(三篠川の支流)そこの生物・ホタル・カワニナである。目標は「科学論文」の書き方を習得させること。ホタル・カワニナの分布から仮説・考察を進める過程はなかなかドラマティックであった。1学年の総合でなぜ科学的思考かというカリキュラム上の位置づけについては、もともとの導入時の動機が定かでなく全体像はよくわからなかった。それはそれとして、おもしろそうだった。科学論文の枠組み(構造)にこだわっていた。(タイトル、所属、要約、はじめに、方法、調査結果、考察・分析、謝辞、文献)。こだわる意味が子どもものものになっていたらいいと思った。全員が取り組んでいるのか、仮説を立てるときグループの中で討論がされているのか、については気になるところである。指導教員が相談などに答えているようだ。報告者から力がつけることができたかが問題提起された(?であるようだ)。

報告から離れるが、ひろしま型カリキュラムの流れで総合的な学習はどこへゆくのだろう。

情報コーナー & 授業実践コーナー

2月24日(土) 市民教実践交流集会

佐藤隆(都留文科大学)「21世紀の教育改革の方向 - フィンランドの教育に学ぶ」

残念ながら、個人的には新しい知見が得られたという講演ではなかった。06年教育基本法を成立させてしまったこの時期に必要な話しかどうか、もひとつ伝わってこなかった。

それはそれとして、学力低下論議とそれによる「子どもたたき」については、PISAなどの「学力」(?)の考え方が、日本の俗流「学力の考え方」とはかなり違うという件については、ことあるごとに指摘し続ける必要がある。私も日本社会での学力問題はやはり「学びからの逃走」だと考える。ただ、百ます計算にみえる学習のとりくみを否定してもいいのだろうか。これも民間教育運動の成果ではなかったのか。

後半のフィンランドの教育の話しがなぜ今必要なのかはよくわからなかった。日本とフィンランドは違う。

一方、私が聞いて良かったと感じた話しを取り上げたい。最後の質疑の中でフィンランドの教育が今のような制度・考え方になったのは1970年代に行われた教育改革によるというエピソードが良かった。複線の制度から単線の制度へ、(日本で言う)小・中学校は社会として共有してほしい学力を育てるべき時期だという社会的な論議によって、現在のような単線の学校制度に変わったということだ。社会的な論議によって教育制度が変わる可能性がある、私はそれを聞いて少し元気が出た。

2007年度教育基礎講座(確か30回目?) 講師決定!!

倉持祐二さん(奈良教育大学附属小学校)

タイトル「日本国憲法に出会う授業」

歴教協でも全国教研でもおなじみ。クレスコ1月号にも「”心の中は自由だ!”を学んだ子どもたち」としてレポートが掲載されています。

来年度の活動について考えていきたいと思います。

例会でも少し話し合いました。教育基本法改正(47年基本法から06年基本法へ)のもとで、社会科や平和教育・様々な教育にどう取り組んでいくのか。まあ、楽しくっていうか...。とうわけで、上に紹介したように、基礎講座の講師が決まりました。少うしでも、教育の現実にがっぷりくんで、ためになって、仲間が集まるような講座を創りましょう。